

問 建設業についてi-Constructionの導入に取り組むのでは

答 現状では導入できる状況ではない



仲谷 丈吾 議員

問 国土交通省では「建設業は社会資本の整備の担い手であると同時に、社会の安全・安心の確保を担う、我が国の国土安全上必要不可欠な「地域の守り手」である。人口減少や高齢化が進む中

にあっても、これらの役割を果たすために、建設業の賃金水準の向上や休日等の拡大等による働き改革とともに、生産性向上が必要不可欠である。調査・測量から設計、施工、検査、維持管理・更新までの全ての建設生産プロセスでICT等を活用する「i-Construction」(アイ・コンストラクション)を推奨し、建設現場の生産性を、2025年度までに2割向上を目指す

す」としています。従来は人的な測量を行い、設計図を書き、そこから3次元データを作成して、施工し、書類による検査という形でした。

i-Constructionはドローンを使って3次元測量を行い、ICT建設機械による施工、3次元データによる検査、納品によって書類の削減と生産性が著しく向上します。

実際に県内の現場で、測量の工期が36日だったところを30日短縮されて7日という検証結果も出ています。動画投稿サイトでも通常習得するまでに4〜5ヵ月かかる技術を、女性2人がたった3日で習得するという映像もあります。

建設現場に関わる人の賃金水準の向上、魅力ある建設現場にする、建設現場での事故をなくす。今までの3K「きつい、きたない、きけん」な仕事から「給与が高い、休暇が取れる、希望が持てる」の新3Kを目指しています。これが実現されれば建設業界で働きたいという若者が増えると思われます。現在は大型土工でしか使われていませんが、地方の事業にも取り入れていかないと建設業界の体質改善にならないと思いますし、今後確実に必要になってくる技術です。

i-Constructionへの補助や講習等整備していくべきではないか。

◆ 青木基盤整備部長

答 ①国では大規模な工事を中心にICT活用工事の取り組みを進めているが、市発注工事はほとんどが小規模な工事であることから現状では導入できる状況ではないと考えている。今後、国・県の取り組み状況や市の工事規模にあった積算基準等の制定状況をみて活用に取り組むことになると考えている。

議会の傍聴にお越しください

3月定例会の予定

2月26日(月)	本会議(開会、提案説明)
3月 7日(水) ~9日(金)	本会議(一般質問)
12日(月)	予算特別委員会(補正予算)、本会議
14日(水)	常任委員会(総務・産業)
15日(木)	予算特別委員会(当初予算1日目)
16日(金)	予算特別委員会(当初予算2日目)
19日(月)	予算特別委員会(当初予算3日目)
23日(金)	本会議(委員長報告、質疑、討論、採決、閉会)

※日程は変更される場合があります。

編集後記

昨年11月に、ハートピア古川内に飛騨市国民健康保険診療所として「こどもこのころクリニック」が開所しました。

12月には所長である藤江昌智医師の講演があり、人々の心に寄り添う、温厚そうなお人柄を伺い知ることができました。今後は飛騨地域の拠点として、多くの親子の心配事に対応されるものと期待するところでもあります。

また、同月、飛騨三市一村の重度心身障がい児・者らがクリスマス会を開き、音楽や体操などを楽しんだり、飛騨吉城特別支援学校では餅つき交流会が行われました。いずれも地域の方やボランティアの皆さんも参加し、楽しい時間を共有しました。

障がいの有無に関わらず、だれもがあんきに暮らせる飛騨市づくりに一歩ずつ進んでいるようですが、さらなる取り組みは、平成30年度予算で検証したいと思います。

(住田 清美)